

令和6年度 福島工業高等専門学校参与会次第

1. 開催日時 令和7年1月30日（木）14:30～16:40

2. 場 所 福島工業高等専門学校 3階 大会議室

3. 次 第

(1) 開会

(2) 校長挨拶

(3) 参与紹介

(4) 高専出席者紹介

(5) 議事

○会長挨拶

1) 国立高専機構第5期中期計画・令和6年度計画、
及び福島高専令和6年度計画の実施状況について

2) 外部評価受審等の予定について

(自己点検評価、国立高専教育国際標準認定制度 (KIS))
(質疑)

3) 福島高専の最近の取組について

①福島国際研究教育機構との連携について

②アントレプレナーシップ教育について

③カーボンニュートラル社会連携講座について

④地域連携・社会貢献の取組について

⑤学生の活躍について

(質疑)

令和6年度 福島工業高等専門学校参与会
配 付 資 料

- 資料 1 福島工業高等専門学校参与会名簿
- 資料 2 福島工業高等専門学校出席者名簿
- 資料 3 福島工業高等専門学校参与会規則
- 資料 4 国立高専機構第5期中期計画・令和6年度計画、
及び福島高専令和6年度計画の実施状況について
- 資料 5 外部評価受審等の予定について
- 資料 6 福島国際研究教育機構との連携について
- 資料 7 アントレプレナーシップ教育について
- 資料 8 カーボンニュートラル社会連携講座について
- 資料 9 地域連携・社会貢献の取組について
- 資料 10 学生の活躍について
- 別冊 福島高専 学校要覧 2024

福島工業高等専門学校 参与会 名簿（令和6年4月～）

構成種別	所属・職名	氏名	備考
1	国立大学法人茨城大学工学部 工学部長	乾 正知	
2	福島県教育庁いわき教育事務所 所長	大竹 孝喜	
2	いわき市中学校長会 会長(いわき市立平第三中学校 校長)	渡邊 貴彦	
3	福島工業高等専門学校協力会 会長(いわき商工会議所 副会頭)	庄司 秀樹	
3	アルプスアルパイン株式会社 人事部 いわき人事課 課長	中村 隆昭	
4	福島工業高等専門学校同窓会 会長 (国際航業株式会社 事業統括本部 法人営業部第1営業グループ調査役)	野口 博	
4	有限会社ほんだ電気商会 (福島工業高等専門学校 電気工学科卒業生)	本田 育義	
5	関西外国語大学 教授 (前 京都大学 理事・副学長)	西阪 昇	

(注) 構成種別：

- 1 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の関係者
- 2 地方自治体の関係者及び県内の教育関係者
- 3 地域産業経済界の関係者
- 4 本校を卒業又は修了した者
- 5 その他高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者

福島工業高等専門学校出席者名簿

NO	氏 名	役 職 名
1	田 口 重 憲	校 長
2	緑 川 猛 彦	教務主事、副校長(教務・研究担当)
3	笠 井 哲	学生主事、副校長(学生・リスク対策担当)
4	赤 尾 尚 洋	寮務主事、副校長(寮務担当)
5	齊 藤 充 弘	副校長(専攻科担当)
6	植 英 規	副校長(企画・評価担当)
7	芥 川 一 則	副校長(地域連携・広報担当)
8	梅 澤 洋 史	副校長(グローバル化担当)
9	鈴 木 茂 和	副校長(復興支援担当)
10	鈴 木 剛	事務部長
11	小 出 瑞 康	機械システム工学科長
12	伊 藤 淳	電気電子システム工学科長
13	車 田 研 一	化学・バイオ工学科長
14	菊 地 卓 郎	都市システム工学科長
15	湯 川 崇	ビジネスコミュニケーション学科長
16	吉 村 忠 晴	一般教科長
17	新 里 雄	総務課長
18	吉 田 浩 二	学生課長補佐(総括担当)

福島工業高等専門学校参与会規則

(平成17年7月26日)

(規則第4号)

(最終改正 平成19年10月9日規則第2号)

(設置)

第1条 福島工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教育研究活動等の状況について、外部の有識者による評価及び助言等の提言を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的として、福島工業高等専門学校参与会(以下「参与会」という。)を置く。

(任務)

第2条 参与会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、校長に対して提言及び助言を行う。

- (1) 教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
- (2) 教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の運営に関する事項

(組織)

第3条 参与会は、次の各号に掲げる者のうちから校長が委嘱した参与若干名をもって組織する。

- (1) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の関係者
- (2) 地方自治体の関係者及び県内の教育関係者
- (3) 地域産業経済界の関係者
- (4) 本校を卒業又は修了した者
- (5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い見識を有する者

(任期)

第4条 参与の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 参与会に、会長を置き、校長が指名する。

2 会長に事故があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

(運営)

第6条 参与会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

(意見の聴取)

第7条 会長が必要と認めたときは、参与会に参与以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 参与会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この規則は、平成17年7月26日から施行する。

2 福島工業高等専門学校外部評価実施細則(平成12年細則第1号)は、廃止する。

附 則(平成19年3月28日規則第15号)

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成 19 年 11 月 9 日規則第 2 号）
この規則は，平成 19 年 10 月 9 日から施行する。

国立高専機構第5期中期計画 令和6年度計画及び福島高専年度計画 の実施状況について

- 第5期中期目標，計画（文部科学省，高専機構）
- 福島高専 令和6年度計画の実施状況（抜粋）

植 英規

（企画・評価担当）

第5期中期目標（文科省）

令和6年(2024年)4月1日～令和11年(2029年)3月31日まで

国立高等専門学校の目的

職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。

中学校卒業後の早い段階からのきめ細やかな教育指導
(座学, 実験・実習, 実技等)

- 産業界に創造力ある実践的技術者を継続的に輩出
- 専攻科において、より高度な知識・素養を身につけた実践的技術者の育成
- 卒業生の約4割がより高度な知識と技術を修得するために進学

第5期中期目標（文科省）

継続した背景

- 日本型高等専門学校教育制度（KOSEN）のアジア諸国を中心とした導入ニーズ
- 15歳人口の減少という状況下で，5年一貫教育による実践的・創造的技術者を育成していかなければならない。
- Society 5.0（超スマート社会）
→ デジタル，数理・データサイエンス・AI，ロボット，半導体分野。アントレプレナーシップ教育の充実等
- 大学や企業と連携し，地域課題を解決するとともに，地域特性に応じたカリキュラムの構築等により，地域に必要な人材を育てていく

福島高専 R6年度年度の実施状況（抜粋）

1. 教育に関する事項

- (1) 入学者の確保
- (2) 教育課程の編成等
- (3) 多様かつ優れた教員の確保
- (4) 教育の質の向上及び改善
- (5) 学生支援・生活支援等

【重要度：高】

Society5.0をはじめとする
社会変革に対応するとともに、
海外で活躍できる技術者を育
成することは重要

2. 社会連携に関する事項

3. 国際交流等に関する事項

4. 一般管理経費の効率化

5. 財務内容の改善に関する事項

6. その他業務運営に関する重要事項

1. 教育に関する事項

(1) 入学者の確保

卒業後のキャリアを具体的にイメージできるような広報活動を行い
入学者の確保に取り組む

- STEAM教育支援を通じ高専の特性や魅力を発信
 - 小中学生対象 公開講座（前期16回実施）
 - 出前授業（前期25回実施）
- 女子学生 Girls SDGs x Technology Contest (GCON)
 - 1チームエントリー
- 障がいがある受験生への配慮
 - 募集要項へ掲載し周知

その他、オープンキャンパスの実施（春・夏・秋・冬，出前）や，
女子中学生向けパンフレットの作成 等

1. 教育に関する事項

(2) 教育課程の編成等

高専教育の高度化・国際化（Society5.0） → MCC（モデルコアカリキュラム）による教育の質保証

- アントレプレナーシップ教育・社会実装教育
→ 磐陽テックガレージの稼働を促進するためのイベント実施
アントレプレナーシップ科目（1年生 入門，4年生 実践）実施
- 学生の意欲向上等を目指した，ディープラーニングコンテスト (DCON)やロボットコンテスト
→ 今年度初めてDCONに1チームエントリー

1. 教育に関する事項

(3) 多様かつ優れた教員の確保

- ・ 民間で活躍する人材の活用による教育内容の高度化を推進
→ 低学年生を対象としたキャリア教育，専攻科1年 産業技術論の授業を活用した「いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座」の継続実施

教員の人事交流制度，各種研修の周知 等

(4) 教育の質の向上及び改善

モデルコアカリキュラム（MCC）に基づく質保証をさらに強化

- ・ 改訂MCCの適切な運用
→ R6年度1年生から改訂MCCでのカリキュラムを運用
- ・ 高専におけるSTEAM教育の高度化
→ 2年生 ミニ研究，専攻科システムデザイン等で実践

1. 教育に関する事項

(5) 学生支援・生活支援等

- 学生相談体制の充実，いじめ防止や障がいをもつ学生への支援
→ スクールソーシャルワーカーを中心とした警察，弁護士を含めた「チーム福島高専」体制
教職員への研修，カウンセリング体制構築の継続実施
- 卒業生や同窓会，企業等と連携したキャリア教育の推進
→ 福島高専協力会企業の協力によるキャリア教育，学生との懇談会の実施。

2. 社会連携に関する事項

地域ニーズを踏まえ各高専の特色をいかした，地域の小中学生を対象とした理工系人材育成支援。社会人を対象とした講座

- ・ 小中学生を対象としたSTEAM教育支援
 - 小中学生対象 公開講座（前期16回実施）
出前授業（前期25回実施） 再掲
 - ※ 学校HPに講座コンテンツを掲載
（コンテンツ集を見た出前授業の依頼あり）
 - F-REIとのプロジェクトにおけるサマースクール，
STEAMカフェの実施
- ・ 社会人を対象とした講座
 - 社会人向け，インフラメンテナンスのリカレント教育事業
（准橋梁点検技術者認定講座），シーケンス制御講座の実施

3. 国際交流に関する事項

諸外国へのKOSEN制度導入に向けた支援。国立高専のオンキャンパス国際化の推進（外国人留学生の受け入れ推進）

- ・ モンゴル， タイ， ベトナム， エジプト， 他への支援
 - 現在のところ本校への直接的な要請はない
- ・ 学生の海外活動の推進
 - SDGsウェビナーの実施（長岡・豊橋 技大と連携）
 - 米国シリコンバレーでのインターンシップの実施
 - 海外インターンシップの実施
 - 9th Regional Conference on Campus Sustainabilityの開催（3月）
- ・ 外国人留学生の受け入れ推進
 - 継続した短期留学生の受け入れ， 担当教員の配置による状況把握の実施

6. その他業務運営に関する重要事項

各国立高専の特色を踏まえた、入学志願者や在校生にとっても魅力のあるキャンパス環境の形成に資する整備の実施

- ・中学生や保護者、在校生にとって魅力あるキャンパス環境の形成に資する取り組みの計画的な実施

- キャンパスマスタープランを更新するための検討を開始

- ・デジタルトランスフォーメーションへの持続的な取り組み

- ・サイバーセキュリティへの取り組み

- 情報担当職員の各種研修への参加

- 情報セキュリティ訓練の実施

- 情報セキュリティ監査の実施（2024年12月）

今後、ネットワーク機器の更新も見据えた対応をしていく

外部評価受審の予定

自己点検評価、国立高専教育国際標準認定制度（KIS）

- 高等専門学校機関別認証評価
→ 自己点検
- 国立高専教育国際標準（KIS）

植 英規

（企画・評価担当）

福島高専が受審する外部評価

- ① 高等専門学校機関別認証評価
R10年度 予定
→ R7年度 自己点検の実施
- ② 国立高専教育国際標準（KIS）
→ R8年度 予定

① 高等専門学校機関別認証評価

認証評価の目的（学位授与機構パンフレットより）

- 教育研究などの質を保証
- 評価結果をフィードバックすることで教育研究活動などの改善に役立てる
- 評価結果を公表することで高専の活動についての理解と支持が得られる

- 7年以内ごとに受審する義務（学校教育法等）
- 福島高専はR3年度に受審
→ 次回の受審までの準備が必要
（自己点検の実施 → R7年度）

① 高等専門学校機関別認証評価

高等専門学校 機関別認証評価 R3結果報告書（公開）



※ 令和7年度から高専は4巡目の評価
教育研究活動等の改善を継続的に行う仕組みの重要性

②国立高専教育国際標準 (KIS)

KOSEN International Standard

国立高専教育国際標準 (KIS) の概要

- 日本固有の高等専門学校 (KOSEN) 制度
 - 15歳からの5年間教育
 - 相当する国際的な教育の質保証の枠組みが存在していない
- 国立高専では、MCCに基づいた質保証の枠組みを構築し運用
- JABEEの支援を受け、JABEE認定審査に接続することを想定した「本科5年間の国際的な教育の質保証」を行う仕組みの検討

福島高専はR8年度に受審予定

福島高専の教育について（HPでも公開）

養成する人材像 → 卒業後しばらく経った後の目指す姿

【工学系学科と専攻】

- ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できるエンジニア
- ② イノベーションに即応するために、問題解決のみならず課題探究できるエンジニア
- ③ モノづくりと環境保全の調和に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できるエンジニア
- ④ グローバルなコミュニケーション能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的エンジニア

【ビジネス系学科と専攻】

- ① 自己実現ができるビジネス・スペシャリスト
- ② グローバルなコミュニケーション能力を有するビジネス・スペシャリスト
- ③ 論理的思考に優れたビジネス・スペシャリスト
- ④ 長期的な視野をもち、持続可能な社会の実現に貢献するビジネス・スペシャリスト

これを実現するために、
3つのポリシー（アドミッションポリシーAP、カリキュラムポリシーCP、
ディプロマポリシーDP）を定め、それに沿った教育を組織的に実施する

福島高専の教育

ディプロマポリシー（DP）

→ 卒業時（修了時）に身に付けるべき学力や資質・能力，卒業時に全員が達成

準学士課程（本科）

1. 豊かな教養と国際的な感覚を有し、継続的な自己学習ができる人間性
2. 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、広い視野から問題を分析し解決できる実践力
4. 日本語や他の言語による基礎的なコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想に協力し、地域課題の解決に貢献できる能力

専攻科課程

1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮でき、生涯にわたって主体的に学び続ける能力
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
3. モノづくりやデザイン能力を有し、工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により複眼的な視野から問題を見つけ解決する能力
4. 国際社会で必要な情報処理能力およびコミュニケーション能力
5. 福島イノベーション・コースト構想の基本理念を理解し、地域産業基盤の構築に貢献できる能力

福島高専の教育

学習・教育目標

→ DPをより詳しく書き下したものを、卒業時に全員が達成

- (A) 地球的視野から人や社会や環境に配慮し、持続可能な社会の発展に貢献できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- (B) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- (C) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- (D) イノベーションに即応するために、情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- (E) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- (F) 情報技術を活用して、グローバルなコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

福島高専の教育

カリキュラムポリシー（CP）

→ 教育課程編成方針，DPを達成するためのカリキュラムを実現

1. 準学士課程（本科）においては、くさび型※の構成であり、「学習教育目標」「ディプロマ・ポリシー」を身に付けるための必修科目、選択科目を適切に設定した、5年一貫の体系的な教育課程を編成する。専攻科においては、準学士課程の内容からの接続、発展を考慮した、より高度な教育課程を編成する。
2. 「ディプロマ・ポリシー」に定めた能力を深化させるため、高学年、および専攻科においては、モノづくり、校外での体験、問題解決能力の養成等に関する科目を開設する。
3. 教育課程を編成するに当たっては、全学年で基本的な知識・技能の修得、それらを応用し思考、判断する能力の修得、それらを自発的に学習できる態度・志向性を修得できるように配慮して、科目配置や科目毎の授業内容や授業計画を設計しシラバスに記載し、シラバスにしたがい教育を実施する。

※くさび型の教育課程：低学年次においては一般科目を多く配置し、学年の進行に伴い専門科目を多く配置する教育課程

福島高専の教育

アドミッションポリシー（AP）

→ 入学者受け入れ方針，求める学生像

【本科 全学科】

1. 基礎的学習内容を十分に理解し、自ら学ぼうとする人（知識・技能）
2. 自ら目標を立て、達成に向けて粘り強く努力する人（思考力・判断力・表現力）
3. あらゆる物事に関心を持ち、深く探究する人（思考力・判断力・表現力）
4. 創造的な「モノづくり」に強い興味を持っている人（主体性・協働）
5. しっかりしたモラルを持ち、まわりの人たちを尊重する人（主体性・協働）

【専攻科 全専攻】

1. 専門の知識と基礎技術を有し、より高度な実践的かつ創造的技術を修得する意欲のある人（知識・技能）
2. 工学と経営の融合した分野に強い興味を持っている人（思考力・判断力・表現力）
3. 職業人としての倫理観を身につけ、専門分野で地域及び社会の発展に貢献したい人（主体性・協働）

重要な取り組み

- 学校が養成しようとする人材像が社会や学生のニーズに合致しているかの確認
→ 3ポリシーに沿った教育の実践
- 高専としての最低限学ぶべき事項（モデルコアカリキュラム）の実践
- 組織としての教育研究活動等の継続的な改善

令和 6 年度 福島工業高等専門学校 参与会

3) 福島高専の最近の取組について

① 福島国際研究教育機構との連携について

②アントレプレナーシップ教育について

副校長（教務・研究担当） 緑川 猛彦



① 福島国際研究教育機構との連携について

科学実験教室への協力

R6. 8.10 エフレイ・QSTサイエンスラボ「親子でワクワク科学実験」開催協力

福島国際研究教育機構（F-REI）と国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構（QST）が主催する令和6年度 エフレイ・QSTサイエンスラボ -夏休み応援企画、親子でワクワク科学実験- を福島高専で開催。サイエンスコミュニケーターの本田隆行さんが進行役、福島高専学生が指導役。



イベントプログラム

- ① ドローンのプログラミング体験
- ② レゴでソーラーカー作り体験
- ③ 霧箱作成と放射線の観察実験

小学4～6年生
その保護者
33組が参加



福島高専文化祭における学生とのコラボ出展

R6. 11.2 福島高専学生サークルとF-REIの共同ブースを設置

福島高専の学生サークル（ソーシャルクリエイション研究会）とF-REIによる共同ブースの設置。F-REIの紹介に学生企画の縁日風レクリエーションを組み合わせブースを設営。

当日来場者
約600名



来場者に配布した記念ステッカー
デザイン：福島高専学生 制作：磐陽テックガレージ

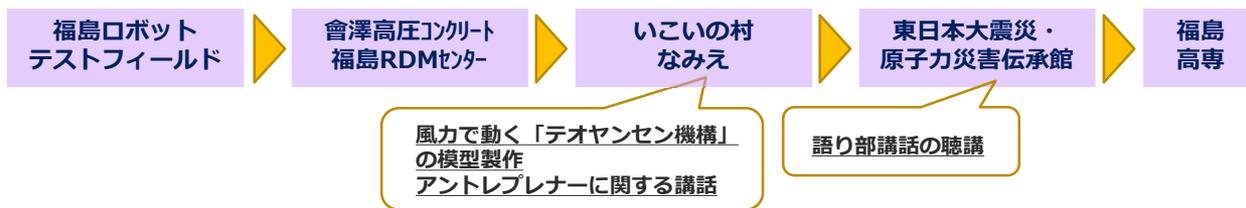
① 福島国際研究教育機構との連携について

第5分野：福島県浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備
申請者：宇都宮大学（福島高専）

R6. 8.20-21 福島浜通りを知るサマースクール開催

県内から小中学生20名
保護者4名参加

採択事業「令和6年度福島浜通り地域におけるまちづくり研究及びラーニング・コミュニティハブ整備」の地域教育プログラムの一環として、小中学生対象サマースクールを開催。



R6. 10～ STEAMカフェの開催

宇都宮大学と共同で実施している上記事業に関連してSTEAMカフェという取組を実施している。毎回テーマを設定し、そのテーマに沿った講師等を招き地元市民や学生と意見交換を行う。

第1回 R6.10.16開催

テーマ：次世代の創造・融合を刺激するサードプレイスのあり方について
基調講演：一般社団法人未来の準備室 理事長 青砥和希氏

第2回 R6.11.13開催

テーマ：原子力災害からの復興まちづくり～原形と現形に至るまちづくり調査・研究
スピーカー：福島高専 都市システム工学科 特命助教 李 晓彤
ファシリテーター：福島高専 都市システム工学科 教授 齊藤充弘

第3回 R6.12.18開催

テーマ：廃炉ロボット・宇宙用耐放射線ダイヤモンドマイクロプロセッサ・メモリの要素技術開発
試作デバイスの評価・回路設計
スピーカー：福島高専 電気電子システム工学科 准教授 山田貴浩



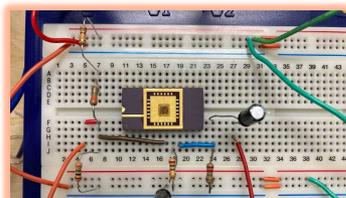
① 福島国際研究教育機構との連携について

第1分野：耐放射線性に優れたダイヤモンド半導体の要素技術開発

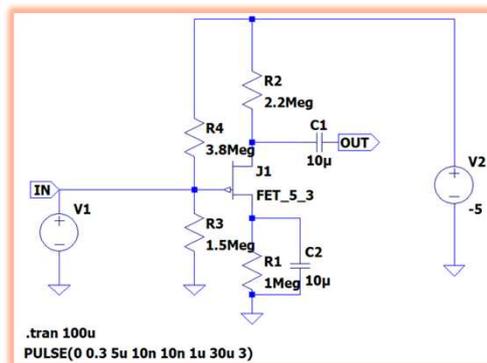
申請者：北海道大学（産総研，大熊ダイヤモンドデバイス，福島高専）

試作デバイスの評価・回路設計

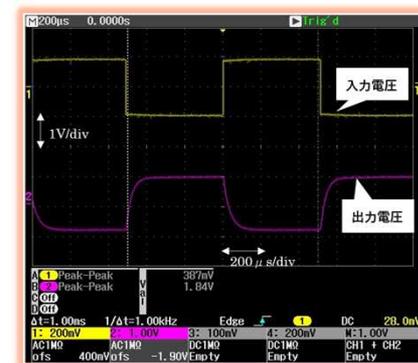
- 北海道大学から提供されたダイヤモンドFETの特性の測定と簡易回路の動作確認
→ LTspiceによるシミュレーションと実回路で動作を確認



ダイヤモンドFETを用いた実験回路の構成例

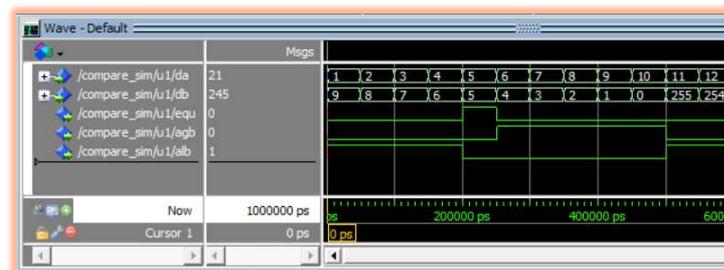


ソース接地回路のシミュレーション用回路



ソース接地回路の動作確認波形

- スイッチング素子としての動作の確認
→ 次年度以降の論理ゲート化に向けた準備として実施
VHDLでマルチプレクサの回路を記述 → 動作のシミュレーションを実施



VHDLによるマルチプレクサの動作シミュレーション結果

人材育成

- いわき市内・周辺の中中学生を対象とした公開講座の実施
「デジタル回路を作って学ぼう！」（令和6年6月・12月）
※福島高専学生が補助員として参加者をサポート
《参加人数》 6月：13名，12月：5名
《実施内容》 アナログとデジタルの違い
コンピュータ内部での数の表し方
基本ゲート回路とその動作
組み合わせ論理回路を作ってみよう
→ ICTトレーナーキットを用いて実習を交えた授業
《受講生の満足度》 受講者の94%が「満足した」と回答
※このほか、いわき市の一般市民・学生を対象とした「STEAMカフェ」でも同様のデモ実習を参加者に体験していただいた



① 福島国際研究教育機構との連携について

第5分野：福島県浜通り地域におけるまちづくり研究

申請者：福島高専

〇まちの実態にみる復旧・復興の現状について

研究補助員として、
10名の学生を採用

△原発事故発生前からの社会構造の変化について

- ・総人口、世帯数
- ・性別、年齢5歳階級別、産業大分類別就業者数
- ・住民基本台帳人口・・・市町村発行（2011年～）
- ・産業大分類別事業所数、従業者数・・・経済センサス（2009年～2021年）

国勢調査
(2010年～2020年)

データベース構築 → 経年分析 人口構造、産業構造の変化を把握

△復旧・復興計画・事業の展開について

- ・復旧計画、復興計画
- ・復興整備計画
- ・総合計画・・・市町村発行（2011年前後）

国、県、市町村
(2011年～)

計画書内容の分析

↓ 復旧、復興、改訂ごと

変化・実施内容

△対象地域への訪問・ヒアリングについて

- ・社会構造変化について
- ・計画書の策定・改訂について
- ・復旧・復興の歩みと現状について・・・課題の把握

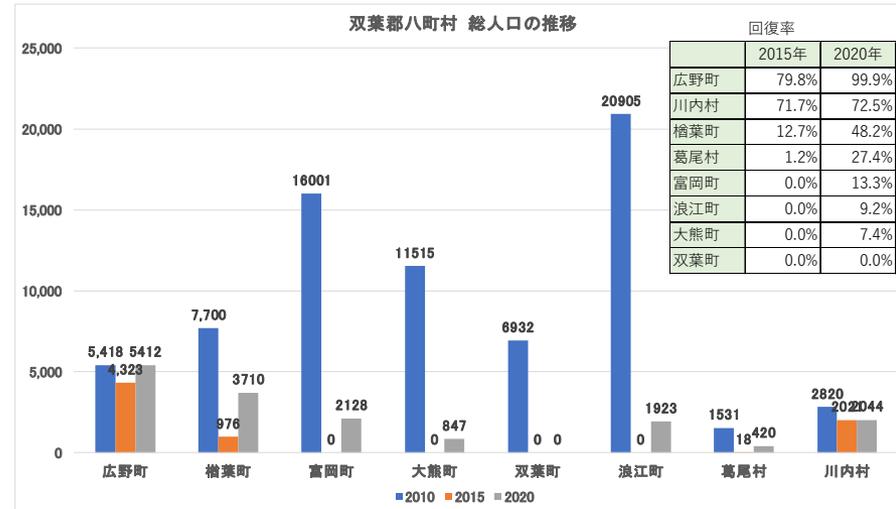
分析結果の提示と確認
避難者の実態について

関係資料の収集

課題の確認・共有

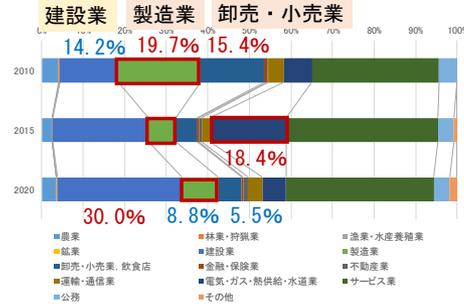
気づき・新たな視点

【調査・研究対象】福島県浜通り地域3市7町3村
いわき市、広野町、楡葉町、富岡町、大熊町、双葉町、浪江町、
南相馬市、相馬市、新地町、川内村、葛尾村、飯舘村



人口構造の変化(広野町)

〇産業大分類別就業者数



復興計画の策定(広野町)

- 〇2011年3月13日～2012年3月31日
町独自の判断による全町避難
- 〇第一次復興計画 2012年3月1日
 - ・復旧期 2012年～~~2014年~~ (3年間)
2013 2
 - ・前期復興期 ~~2015年~~～2017年 (3年間)
2014 4
 - ・後期復興期 2018年～2021年 (4年間)
- 〇第二次復興計画 2014年3月31日



②アントレプレナーシップ教育について

令和5年度：高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業（令和4年度第2次補正予算）

- 高専をスタートアップの教育拠点として、高専間で連携を図り、各地域から「ものづくり」×「AI」×「課題解決」によるイノベーションを推進。
- アントレプレナーシップ教育に取り組む全ての国公立高専に対して、高専生が自由な発想で集中して活動にチャレンジできる起業者工房（試作スペース）等の教育環境整備などスタートアップ人材育成に資する各高専の戦略的な取組を支援。



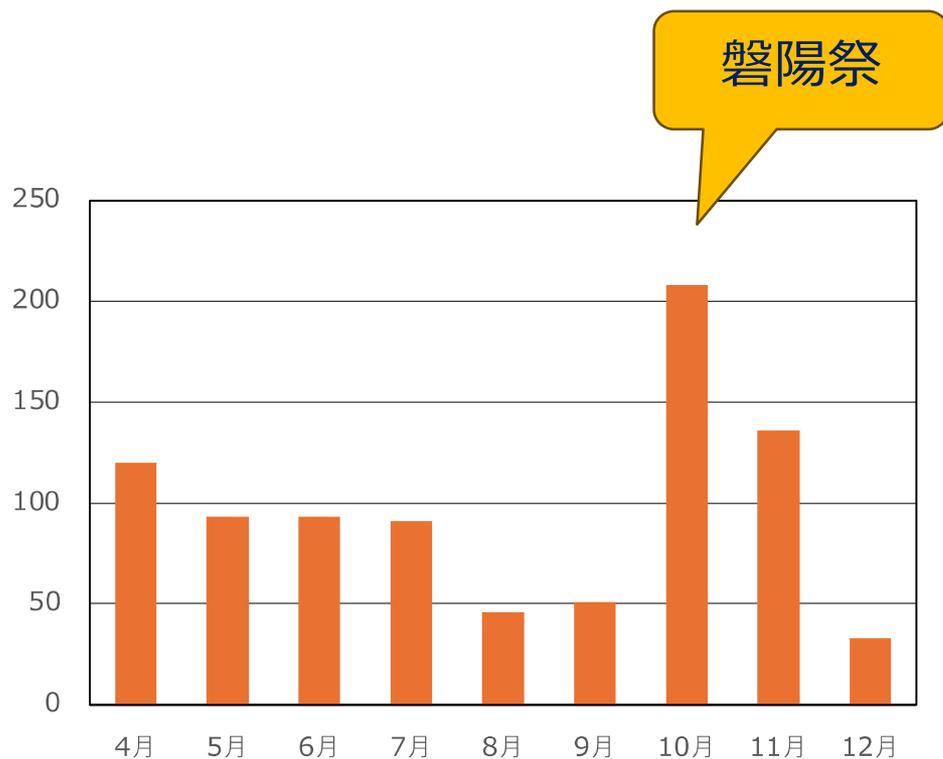
磐陽テックガレージ



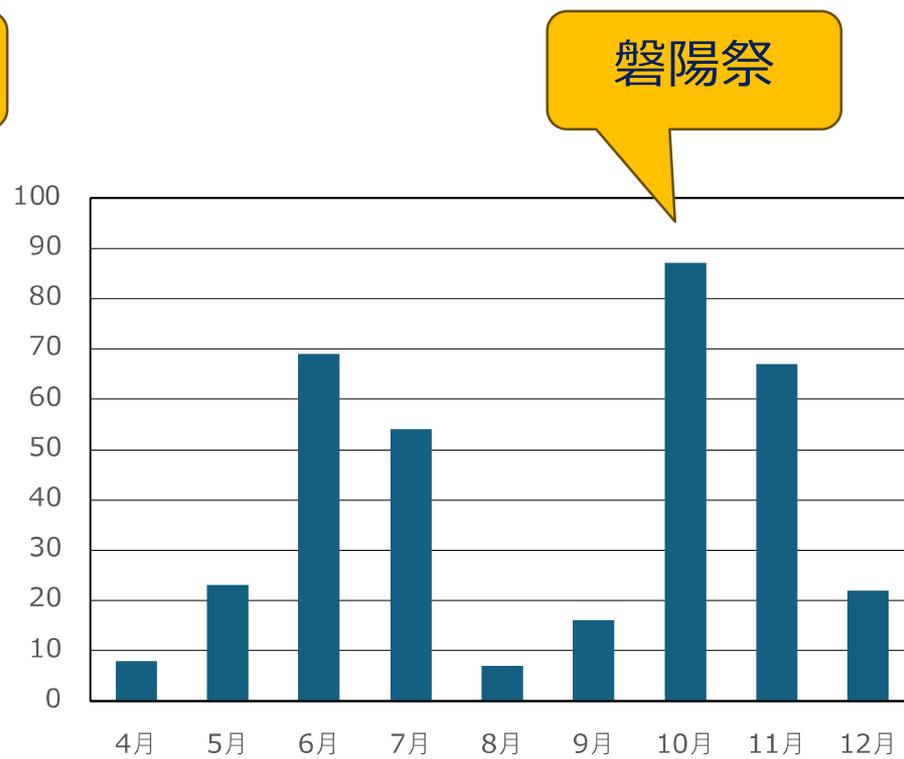
スタジオ

②アントレプレナーシップ教育について

磐陽テックガレージの稼働状況



ガレージの使用者数



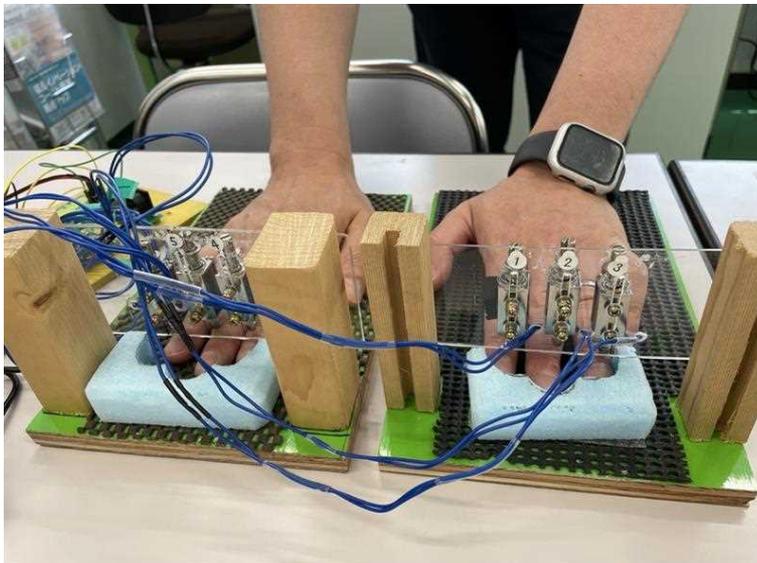
3Dプリンタの使用者数

②アントレプレナーシップ教育について

磐陽テックガレッジの稼働内容

いわき市教育文化事業団との連携事業（授業）

いわき短期大学との共同研究：
盲ろう者及びその支援者のための指点字によるコミュニケーション支援機器の開発



②アントレプレナーシップ教育について

講習会

AI実践ブートキャンプ DCONのサポートプログラム

【受講期間】 9/2~4, 9/10~12 (全6日間)

【受講者】 金子, 和賀, その他 (教員1名, 学生2名) →DCON出場へ

【講座内容】

- ・ データサイエンスを通じてAIの基礎となる考え方を学ぶ
- ・ データの解析・分析スキル
- ・ 分析結果を効果的に可視化する技術、機械学習の基礎、データベースの扱い方
- ・ 多層パーセプトロン・ニューラルネットワークの基礎
- ・ Deep Learningの核心的技術や生成AIなどの最新トピック

高専AI実践ブートキャンプ2024



講座説明・人工知能概論

M 松尾研究所
MATSUO INSTITUTE, INC.

2024/9/2

Curriculum



Day 1		Day 2		Day 3	
#	タイトル	#	タイトル	#	タイトル
1	オープニング	1	ライブラリ3 (matplotlib)	1	深層学習基礎1
2	人工知能概論	2	教師あり学習	2	深層学習基礎2
3	ライブラリ1 (numpy)	3	教師なし学習	3	CNN基礎
4	ライブラリ2 (pandas)	4	テスト演習		
5	DS演習	5	松尾先生講演		
6	起業概論1	6	DS演習 (続き)		

Day 4		Day 5		Day 6	
#	タイトル	#	タイトル	#	タイトル
1	DL演習	1	DL演習 (続き)	1	DL最前線5 (拡散モデル)
2	高専OBの声	2	DL最前線1 (画像認識)	2	DL最前線6 (世界モデル)
3	DL演習 (続き)	3	DL演習 (続き)	3	起業概論3
4	RNN	4	DL最前線2 (ロボティクス)	4	DL演習 (続き)
5	Transformer	5	DL最前線3 (LLM)	5	クロージング
6	起業概論2	6	DL最前線4 (強化学習)		

■ 講義 (+演習)

■ 演習のみ

■ コンベ

■ 対談

■ 起業概論

②アントレプレナーシップ教育について

講習会

3Dプリンターワークショップ

【受講期間】 9/19~20

【受講者】 学生24名

【講座内容】

- ・ 3Dプリンタでの試作品の製作
- ・ 3Dスキャナの紹介
- ・ グループワークでの課題製作

建設系学生対象
に
2月に実施予定



②アントレプレナーシップ教育について

授 業

【アントレプレナーシップ入門（1年生）, 選択科目, 92名受講】

○授業内容

いわき市教育文化事業団から提示された課題を磐陽テックガレージでのモノづくりにより解決するために, 具体的な製作物のアイデア・デザイン提案および製作を行う。

○課題例

- ・ 体験学習用の土器・勾玉復元プラモデルの作製
- ・ ミュージアムグッズの作製
- ・ 遠野和紙を用いたのぼりの作製
- ・ じゃんがらの紹介動画の作成, etc

②アントレプレナーシップ教育について

授 業

【アントレプレナーシップ実践（4年生）, 選択科目, 集中講義, 21名受講】

○授業内容

授業を通じて、主体的に新たな価値を創出するマインドを醸成する。

○課題例

- ・ 着るだけ&被るだけお風呂で効率的な癒しを！：帰宅後、お風呂に入るのが面倒な社会人、学生に着る、被るだけで入浴できる商品
- ・ 障がいの壁も超える「具体化No.1」美容院：眼が不自由な方のための髪型を確認するウィッグを提供するビジネスアイデア
- ・ 分からない授業をビートが翻訳！：教員の声が聞きづらい、わかりづらいという課題を改善するために、授業をAIで補完するアプリ開発

etc

②アントレプレナーシップ教育について

コンテストへの参加状況および結果

コンテスト名称		参加学生	結果
ロボットコンテスト	東北地区大会	Aチーム：2M 2名、2C Bチーム：3E 2名、2M	・Aチーム（四神獣）：予選1位、決勝4位 アイデア賞及び特別賞、全国大会出場 ・Bチーム（隼艦）：予選3位、決勝4位
	全国大会	Aチーム：2M 2名、2C	
プログラミングコンテスト		5E 3名	全国大会出場 準決勝敗退
デザインコンペティション		3T 6名	構造デザイン部門：35/52位 プレデザコン部門：5/16位
高専ディープラーニングコンテスト		福島高専チーム：2E, 1M, 1B 岐阜高専+岐阜高専：3C、岐阜高専5	
高専GIRLS SDGs×Technology Contest GCON		5T 5名	本選出場 鹿島建設賞
高校生ビジネスプラングランプリ		3B	
全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園		3B 27名	福島大会優勝 全国大会出場
第5回インフラマネジメントテクノロジーコンテスト2024		5T,4T,3T 11名	地域賞
第3回高専防災減災コンテスト		福島高専チーム：5T5名 合同チーム（沼津，福島，石川，福井，奈良）	書類審査通過 最終審査会出場

②アントレプレナーシップ教育について

サイエンスフェア

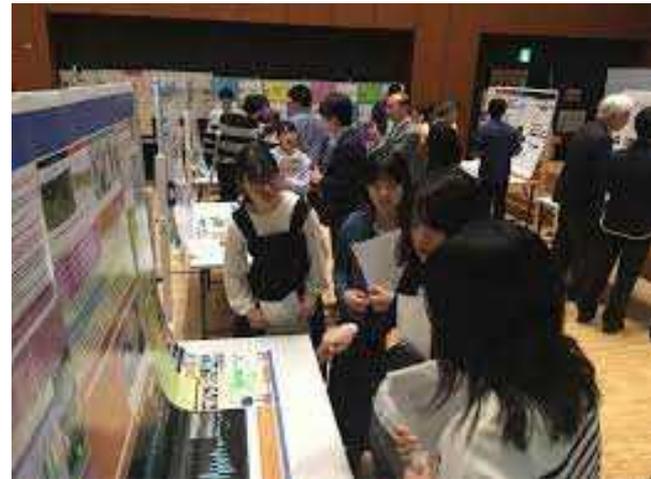
日 時：2025年3月22日（土）

会 場：福島工業高等専門学校 専攻科棟講義室

対 象：小学生とその保護者

内 容：科学体験ができるブースを設置し，子供たちが理科に興味を持つきっかけを作ると共に，地元企業を知ってもらう。

ブース：企業ブース：3~4，高専ブース：6~7，全10ブース程度



カーボンニュートラル社会連携講座について

令和7年1月30日
参与会説明資料

地域環境テクノセンター長 菊地 卓郎

令和5年度

高等教育機関における共同講座創造支援事業費補助金補助事業

申請者：

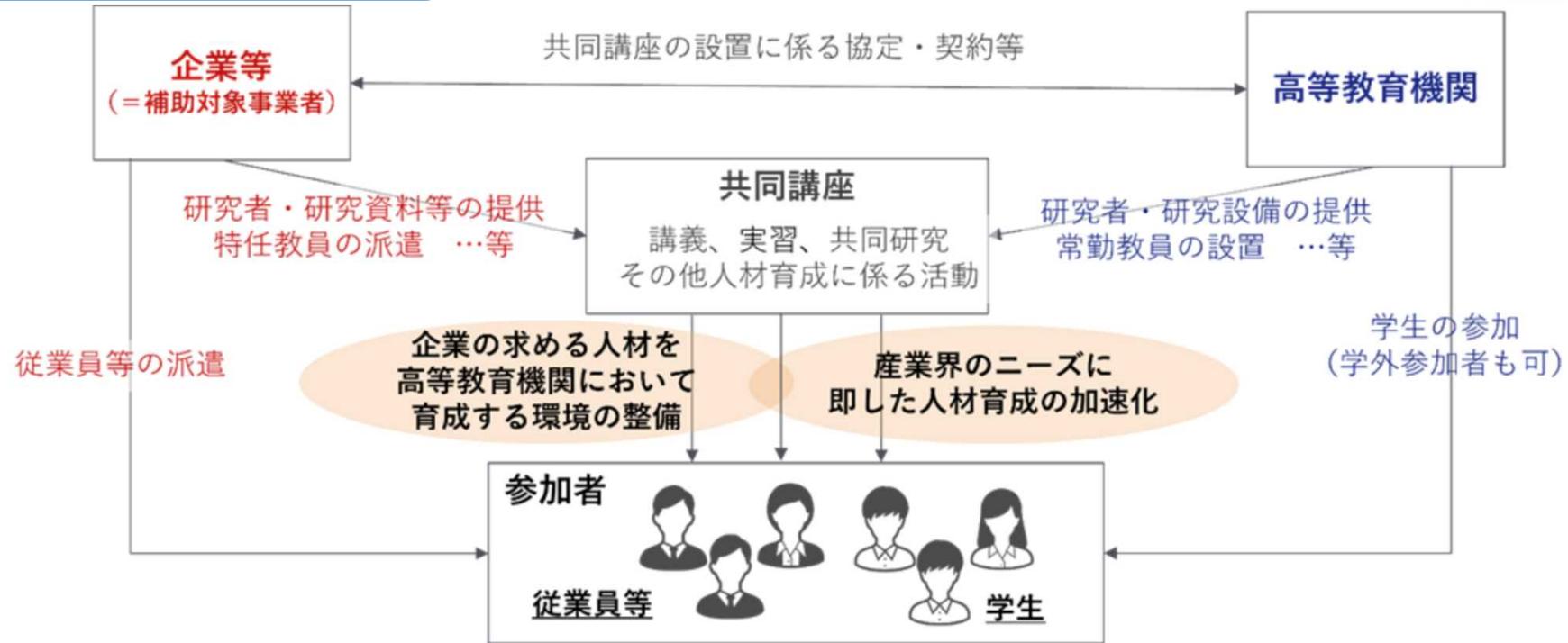
いわきCN人材育成コンソーシアム
古河電池株式会社（幹事会社）

連携高等教育機関：

独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校

共同講座名：

いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座



○通常枠

概要：共同講座を設置・運営する取組を支援
補助率：1/3以内、補助上限額：3,000万円（税抜）/事業

○処遇反映枠

概要：共同講座の設置・運営に加えて、共同講座によるリスキリングの成果等を処遇へ反映する取組を支援
補助率：1/2以内、補助上限額：3,000万円（税抜）/事業

補助対象経費

- ✓ 共同講座運営費
- ✓ 人件費
- ✓ 委託費・外注費
- ✓ 備品・機材導入費
- ✓ その他諸経費

参照URL:

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/koutou_kyouiku_kikan_niokeru_kyoudoukouzasousyutu.html

令和5年度交付決定事業者（五十音順）

■一次公募（処遇反映枠：13件）			
NO	事業者	連携高等教育機関	共同講座の名称
1	旭食品株式会社	高知大学	旭食品・高知大学共同研究講座
2	岩淵薬品株式会社	千葉大学	健康まちづくり講座
3	株式会社小野組	新潟大学	社会インフラ共創講座
4	Craif株式会社	名古屋大学	バイオDX人材育成共同研究講座
5	株式会社コミュニティメディア	長崎大学	海洋デジタルツイン構築講座
6	株式会社サンウェルズ	順天堂大学	PD長期観察共同研究講座
7	株式会社テクノ高槻	岡山大学	むくみを科学する先進リンパ学講座
8	株式会社どうぐばこ	山形大学	データ駆動型課題解決スキルセット講座
9	DOWAホールディングス株式会社	東北大学	DOWA×東北大学共創研究所
10	パーソルテンプスタッフ株式会社	大阪大学	バイオ DX 産業人材育成講座
11	株式会社パワーソリューションズ	千葉大学デザイン・リサーチ・ インスティテュート	パワーソリューションズ DXデザイン研究室
12	株式会社プライムスタイル	早稲田大学・上智大学	データ駆動型経営及び事業変革を実現するための DX人材育成プログラムの実証研究
13	プラスマン合同会社	岡山大学	医療情報化診療支援技術開発講座

参照URL:

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/koutou_kyouiku_kikan_niokeru_kyoudoukouzasousyutu.html

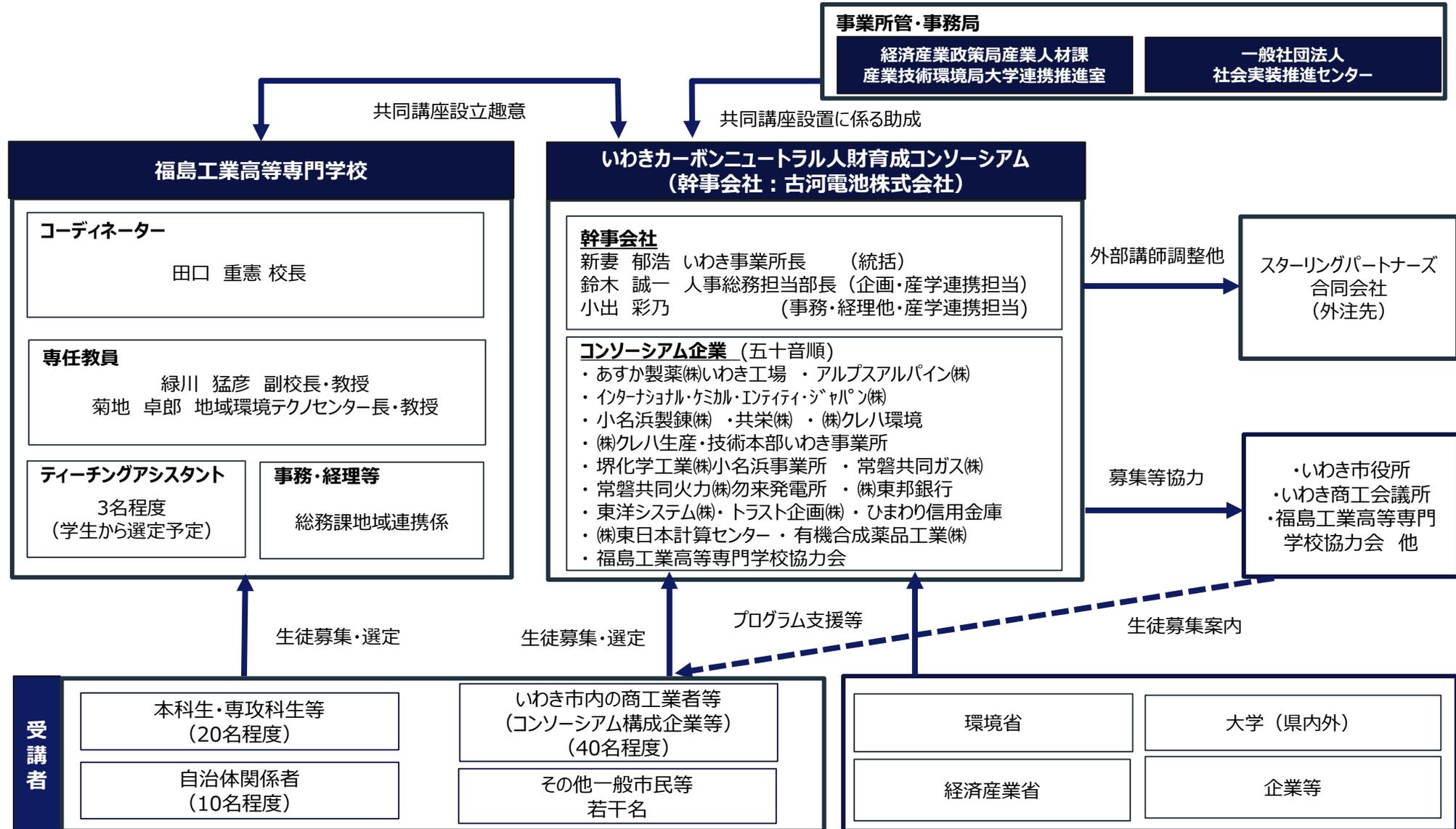
■一次公募（通常枠：15件）

NO	事業者	連携高等教育機関	共同講座の名称
1	特定非営利活動法人イノベブリッジたきざわ	岩手県立大学	滝沢市IPUイノベーションセンター企業による共同授業
2	NECネットエスアイ株式会社	芝浦工業大学	企業のカーボンニュートラル時代を牽引するGX人材の育成
3	一般社団法人Green innovation	早稲田大学	Green Innovator Academy 及び環境人材育成講座創造
4	一般社団法人埼玉県中小企業診断協会	立正大学	DX人材・支援人材育成講座
5	シナノケンシ株式会社（ASPINA）	信州大学工学部	デジタル人材育成共同研究講座（ASPINA）
6	ソニーグループ株式会社	東京大学	越境的未来共創社会連携講座
7	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社	熊本大学	半導体プロセス評価共同研究分野
8	株式会社ソラシドエア	淑徳大学	グリーンスカイフェスタを契機とした人材育成及び地方創生の取組
9	株式会社東京山側DMC	慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科	多摩エリアにおける地域共創型共同講座
10	一般財団法人日本繊維製品品質技術センター (繊維産業におけるLCA人材育成コンソーシアム)	信州大学繊維学部	繊維産業におけるLCA人材育成共同講座
11	株式会社日本総合研究所	早稲田大学ビジネススクール	B Corpを活用したSX人材育成講座（第2期）
12	古河電池株式会社（いわきCN人材育成コンソーシアム）	福島工業高等専門学校	いわきカーボンニュートラル社会連携共同講座
13	株式会社ポピンズプロフェッショナル	千葉大学	保育現場における「配慮を要する子ども」への対応方法
14	一般社団法人臨床医工情報学コンソーシアム関西	大阪大学	スマートコントラクト活用共同研究講座
15	ReGACY Innovation Group株式会社	広島商船高等専門学校	高専GAPファンドプログラム

参照URL:

https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/koutou_kyouiku_kikan_niokeru_kyoudoukouzasousyutu.html

■ 実施体制（補助対象事業者、高等教育機関、その他協力体制）



■ 過去の実施内容からの改善・発展ポイント

- 2023年10月～2024年2月の期間、各回90分の15講義を実施。各回平均60名程が参加し、脱炭素に関する基礎的な知識習得については学生、社会人ともに一定の成果を得られた。
- 一方で、基礎事項に関する理解度の差や、地域企業の有する専門知識に対する要望があったなど、カリキュラムの一部において課題があった。
また、企業並びに自治体関係者と学生との交流の場を求める要望もあった
- 上記を踏まえて、今年度は①地域企業による専門講座の追加、②対象者の自治体関係者への拡大、③PBLを拡大した学生、社会人によるワークショップ運用の改善、などを行い、より効果的な人材育成を目指す。

過去の効果検証結果

実施概要	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2023年10月～2024年2月の期間、各回90分の15講義を実施。 ✓ 各回平均60名程が参加。
成果	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 15講義を通じて基礎的な内容を学び、知識習得については、学生、社会人とも一定の成果を得られた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基礎講座の一部では理解度に参加者間で差があったため、講師、内容の見直しが必要 ✓ 地域企業のもつ専門性について学びを求める声も多く、合わせて学生、社会人の交流の場を求める声も出た

改善・発展ポイント

①専門講座の追加	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基礎講座を履修済み、かつ専門知識を習得したい受講生については、より発展的な専門講座を新設する ✓ 専門講座は、蓄電池に関する企業による講義とする
②対象者のへ自治体関係者の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基礎講座は、参加対象者を拡大するため、一部市民の参加を進める
③運用におけるPBLの改善	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 社会人、学生との交流要望に関する声に対応し、特定テーマを議論する、ワークショップを講座に新設

開催日時	開催日 15:00-16:30 (1回90分×15回)
開催場所	国立福島工業高等専門学校講義A棟4階階段教室 (いわき市平上荒川字長尾30)

講義開催日	講義テーマ
第1回 2024年10月4日 (金)	【概論】カーボンニュートラル概論 愛知工業大学総合技術研究所 近藤 元博 教授・博士
第2回 2024年10月11日 (金)	【政策】我が国のカーボンニュートラル政策① (省エネルギー・新エネルギー政策) 資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部政策課 村上 貴将 課長
第3回 2024年10月18日 (金)	【政策】我が国のカーボンニュートラル政策② (環境地域政策) 環境省福島地方環境事務所中間貯蔵部管理課調査設計室 河田 悠 室長
第4回 2024年10月25日 (金)	【新エネ】CNエネルギー技術開発・普及 ① (新エネルギー研究・技術・製品開発 (太陽光・太陽熱利用)) 京都大学化学研究所 若宮淳志 教授・博士 (株式会社エネコートテクノロジーズ最高科学責任者)
第5回 2024年11月8日 (金)	【新エネ】CNエネルギー技術開発・普及 ② (新エネルギー研究・技術・製品開発 (水素・アンモニア)) 三菱重工業株式会社エンジン・ドライブGTCC事業部ガスタービン技術部 中小型ガスタービン設計G 齊藤 希グループ長
第6回 2024年11月15日 (金)	【省エネ】省エネルギーの考え方・技術・実務・事例① (製造・工場編) 愛知工業大学総合技術研究所 近藤 元博 教授・博士
第7回 2024年11月22日 (金)	【省エネ】省エネルギーの考え方・技術・実務・事例② (インフラ・まちづくり編) 国土交通省総合政策局環境政策課 高森 真人 課長補佐
第8回 2024年11月29日 (金)	【燃料】カーボンニュートラルエネルギー技術開発・普及① (次世代燃料) 石油連盟カーボンニュートラル推進部 杉山 正晃 部長
第9回 2024年12月6日 (金)	【ガス】カーボンニュートラルエネルギー技術開発・普及② (メタネーション) 資源エネルギー庁ガス市場整備室 白石 雅人 室長補佐
第10回 2024年12月13日 (金)	【蓄エネ】最新蓄電池技術開発・普及 (リチウムイオン電池・全固体電池・固体高分子形燃料電池他) 京都大学大学院人間・環境学研究所 内本 喜晴 教授・博士

講義開催日	講義テーマ
<p>第11回・第12回 2024年12月20日（金）</p>	<p>【個別専門講座】蓄電池①・② 古河電池株式会社 いわき事業所</p>
<p>第13回 2025年1月10日（金）</p>	<p>【個別専門講座】蓄電池③ 東洋システム株式会社 庄司 秀樹 代表取締役</p>
<p>第14回 2025年1月17日（金）</p>	<p>【個別専門講座】蓄電池④ 株式会社クレハ KF技術プロジェクト 電池材料研究グループ 小林 正太 リーダー</p>
<p>第15回 2025年1月24日（金）</p>	<p>【総括】ワークショップ（PBL） 愛知工業大学総合技術研究所 近藤 元博 教授・博士</p>

■ 一般公開シンポジウムによる成果報告・発信等

スケジュール

開催日時	2025年2月7日（金）13：00-16：15
参加人数	150名（事前登録制）
会場	いわき産業創造館 企画展示ホール（福島県いわき市平字田町120番地LATOV6階）
後援	経済産業省（資源エネルギー庁）・環境省（予定）

13:00	開会挨拶
13:05	基調講演（気象予報士 井田寛子様）・小休憩
14:15	関連発表（受講者）
	小休憩
15:00	パネルディスカッションイントロダクション（コーディネーター・パネリスト紹介・パネルテーマ説明）
	パネルセッション／会場Q&Aセッション
	クロージングメッセージ・クロージング
16:10	閉会挨拶



基調講演講師：気象予報士 井田寛子（いだ ひろこ）様 埼玉県春日部市出身、筑波大学第一学群自然科学類化学科卒業・東京大学院総合文化研究科広域科学専攻修了（2024年より筑波大学大学院博士課程（生命地球科学研究群）在籍）。2002年日本放送協会入局。ニュースウオッチ9等のキャスター・気象予報士等の他、2016年からはTBSテレビやNHKラジオ等の気象情報担当等としても活躍。環境省中央環境審議会地球環境部会気候変動影響評価・適応小委員会専門委員、NPO法人気象キャスターネットワーク理事長、世界自然保護基金WWFジャパン顧問他。難しいことを分かりやすく伝えるがモットー。

地域連携と社会貢献

令和7年1月30日
参与会説明資料

地域環境テクノセンター長 菊地 卓郎

地域連携の取り組み ①

共同研究・受託研究・寄付金

令和5年度実績

◎共同研究

令和5年度実施件数 23件

(うち企業との実施件数 16件、協力会企業との実施件数 10件)

◎受託研究

令和5年度実施件数 11件

(うち企業との実施件数 6件、協力会企業との実施件数 3件)

◎寄附金

令和5年度受入件数 19件

(うち企業との受入件数 13件、協力会企業との受入件数 6件)

教員の研究・教育シーズ集をHP上で公開

福島工業高等専門学校協力会

平成5年に福島高専の教育研究の振興、地域産業界との連携・協力等を目的として設立されました。以来、福島県浜通り地域・北茨城市を中心に、広域にわたり、福島高専を通じた産学官連携の推進、会員企業の活性化、地域産業界を支える人材育成のため、各事業活動を展開しています。

入会企業社数 ・ ・ ・ 167社（R6.4.19現在）

キャリア教育

目的

近年キャリア教育の重要性が高まっており、高等教育機関においても実施が求められている。学生自らキャリア形成を考えることにより、学習意欲の向上や社会人・職業人としての人間力形成のため、低学年からキャリア教育の実施が必要とされる。

昨年度後期より協力会企業及び連携協定機関に講師を依頼し、本科1～3年生を対象としたキャリア教育を開始した。本年度も継続して事業を実施する。

R5年度後期キャリア教育【R5.10～R6.2実施】

協力企業・機関（敬称略・順不同） 44社

富士ピー・エス、カネカ、東洋システム、福山コンサルタント、東日本コンクリート、福浜大一建設、加地和組、フジタ東北支店、インターナショナル・ケミカル・インティティ・ジャパン、古河電池いわき事業所、東新工業、東京ガスネットワーク、シグマ、アトックス、フタバコンサルタント、小野工業所、ケミクレア、マルト、ひまわり信用金庫、三菱ケミカル、リニューアブル・ジャパン、パイオニア設計、堺化学工業小名浜事業所、ヒロエンジニアリング、クレハ環境、JX金属磯原工場、東京パワーテクノロジー、第一三共ケミカルファーマ、いわき印刷企画センター、日本工営エナジーソリューションズ、クレハ、川崎陸送、常磐共同火力、クリナップ、日本3Dプリンター、日本原子力研究開発機構、東京エネシス、アセンド、福島国際研究教育機構、常磐共同ガス、有機合成薬品工業、極東興和、アルプスアルパイン、カゴメ

学科学年別実施回数

1年機械	3回	2年機械	4回	3年機械	9回
1年電気	3回	2年電気	3回	3年電気	5回
1年化学	2回	2年化学	3回	3年化学	9回
1年都市	5回	2年都市	6回	3年都市	10回
1年ビジ	3回	2年ビジ	2回	3年ビジ	6回



講義の様子②

福島工業高等専門学校ホームページ お知らせ2023.10.16ページを抜粋
https://www.fukushima-nct.ac.jp/fk_news/post_739.html

インターンシップマッチング

目的

地元企業への就職率向上のために、本科4年生及び専攻科1年生を対象としてインターンシップの説明会を開催する。この説明会では、インターンシップに協力いただける企業が、直接学生にその内容と企業概要を説明する場を提供する。これによりインターンシップのミスマッチを減らすことが可能となる。さらに企業と学生の交流を通して相互理解を深め、地元企業への就職を促す効果も期待される。

令和6年度インターンシップマッチング

【R6.4.13 (土) 実施】

協力企業・機関（敬称略・順不同） 48社

郡山測量設計社、フタバコンサルタント、三共技研工業、ドーピー建設工業、ムラテックCCS、リニューアブル・ジャパン、古河電池、東亜合成広野工場、ARCALIS、クレハ環境、常磐エンジニアリング、日本工営エナジーソリューションズ、日栄地質測量設計、極東興和、城北化学工業、東日本建設コンサルタント、常磐開発、中野建設コンサルタント、東京ガスネットワーク、加地和組、シグマ、福浜大一建設、東コンサルタント、東京エネシス、クレハ、バックス情報システム、東京ガス、渡辺組、オリエンタルモーター相馬事業所、陸奥テックコンサルタント、クリナップ、川崎陸送、小野工業所、ルネサスエレクトロニクス、エムイーシーテクノ東北事業所、西武建設、ケミクレア、東新工業、大和田測量設計、フジタ、日東電工、アドレス、地質基礎、パイオニア設計、堺化学工業、インターナショナル・ケミカル・エンティティ・ジャパン、国際航業、アトックス



会場の様子

福島工業高等専門学校ホームページ お知らせ2024.04.17ページを抜粋
https://www.fukushima-nct.ac.jp/fk_news/post_847.html

「福島高専協力会企業による懇談会」

目的

本校全学生が今後就職活動を行うに当り，以下のことを目的として開催するものである。

- * 地域で発展する企業の事業・業務内容を理解する。
- * 自己の適性を把握した上で，携わりたいと思う仕事を模索する。
- * 地域企業に興味を持って頂き，個々の能力を生かし活躍できる場をイメージしてもらおう。

R6年度「福島高専協力会企業による懇談会」

【R6.12.11（水）実施】

協力企業・機関（敬称略・順不同） 48社

鴻池組、鷺宮製作所、東電設計、NTTインフラネット、あおみ建設、リニューアブル・ジャパン、城北化学工業いわき工場、パシコン技術管理、ケミクレア、フードテクノエンジニアリング、復建技術コンサルタント、アルプスアルパイン、東京水道、佐藤工業、タンガロイ、堺化学工業、いわき大王製紙、古河電池、三菱ガス化学、常磐開発、NOK、パイオニア設計、カネカ、佐藤工業、東京ガスネットワーク、黒木コンポジット、山木工業、ドーピー建設工業、ふたば、クレハ環境、JX金属磯原工場、ソルクシーズ、郡山測量設計社、東京エネシス、竹中土木（竹中工務店グループ）、COM電子開発、富士ピー・エス、メタウォーター、三共技研工業、長谷川体育施設、常磐エンジニアリング、陸奥テックコンサルタント、東亜グラウト工業、セツツカートン、日本工営エナジーソリューションズ、クリアタクト、松下産業、川崎陸送

社会貢献の取り組み ①

出前講座・公開授業

令和5年度実績

◎公開講座

令和5年度実施件数 24件

(小学生向け3件、中学生向け13件、小中学生向け7件、社会人向け1件)

◎出前授業等

令和5年度実施件数 62件

(小学生向け34件、中学生向け17件、高校生向け1件、
小中学生向け2件、小中親子向け3件、社会人向け5件)

◎学校開放事業

令和5年度実施件数 4件

福島県中学生ブリッジデザインコンテスト、第13回中学生英語スピーチコンテスト
第17回中学生プログラミングコンテスト、第22回福島県中学生ロボット競技会

◎公開講座コンテンツ集

37のコンテンツ（R6.9現在）を用意し、HP上で公開

◎出前授業コンテンツ集

25のコンテンツ（R6.4現在）を用意し、HP上で公開

令和6年度
福島工業高等専門学校参与会
3) 福島高専の最近の取組について
⑤ 学生の活躍について

令和7年1月30日(木)

副校長(学生主事)

笠井 哲(かさい・あきら)

はじめに

- 昨年1年間、**2024年1月から12月**における「**学生の活躍**」について顕著なものを、

コンテスト

クラブ(愛好会)活動

その他

の順に紹介いたします。

- まず、高専ロボコン等コンテストについて。

知能ロボットコンテスト

- 6月15日～16日に、スリーエム仙台市科学館で開催された「第36回知能ロボットコンテスト2024」で、本校の**分子生物学愛好会**がチャレンジャーズコースで**優勝**し、あわせて**最優秀技術賞**（大会全体での最高賞）を受賞
- 泉田理咲さん（中央）、久保木智裕さん（右）



高専ロボコン東北大会

- 10月20日、鶴岡で開催された「第37回アイデア対決・高専ロボコン東北地区大会2024」に出場
- 競技テーマは、「ロボットたちの帰還」
- 上のA、下のB両チームとも準決勝に進み**ベスト4**
- Aチームが、**アイデア賞と特別賞を受賞**し全国大会へ



高専ロボコン全国大会

- 11月17日、「第37回 アイデア対決・高専ロボコン2024全国大会」が両国国技館で開催
- 「四神獣」が出場するも、1回戦でロボットの着地の衝撃による不具合が発生、残念ながら本来のパフォーマンスを披露できずに惜しくも1回戦敗退
- テストランの様子⇒



エコノミクス甲子園

- 12月8日に東邦銀行 福島支店で開催された、「全国高校生金融経済クイズ選手権**エコノミクス甲子園**」福島県大会で、ビジコミの3年生が**優勝**および**準優勝**
- 優勝チーム2名は、2月に行われる全国大会に出場予定
- 田口校長、菊池さん、渡辺さん、氏家さん、清水さん、芥川教授



高専GCON2024

- 12月14～15日、日経ホールで開催された高専GCON2024本選に、都市システム5年の「チーム・まちのお医者さん」が出場
- 「Let's GO! ♡IWAKI パークレット」で、ファイナリスト賞と協賛企業（鹿島建設）賞を受賞



廃炉創造ロボコン

- 12月21日、16チームが参加し「第9回**廃炉創造ロボコン**」が楢葉遠隔技術開発センターにて開催
- 日本原子力研究開発機構と廃止措置人材育成高専等連携協議会が主催
- 本校は、**特別賞・東京エネシス賞**を受賞



クラブ(愛好会)活動

- 本校は、運動部・文化部等の**クラブ活動**が、高専の中では比較的盛んです。
- 今年度の東北地区高専体育大会には、11競技に出場し10競技が**全国大会の出場権を獲得**
- 学生の希望で**愛好会**も結成されており、活動しています。このうち、顕著な活躍についてご紹介いたします。

全国学生カバディ選手権

- 2月10日～11日、埼玉県飯能市自由の森学園中学校・高等学校体育館で開催された第32回**全国学生カバディ選手権大会**において、関根彩夏さん(5E)が学生連合チームの一員として参加し**優勝**
- 今後のさらなる活躍に期待
- 関根彩夏さん(カバディ愛好会)は、令和4年から**全日本の強化選手**



全国高専将棋大会

- 8月28日～30日に、いわき市生涯学習プラザで開催された、第31回**全国高専将棋大会**は本校が主管となり大会を運営
- 全国36高専から189名の学生が参加
- 32チームによる団体戦で、本校のAチームが**3位入賞**



全国高専体育大会

- 8月下旬～、北海道地区
- 全国1位 **体育賞**2名
- 陸上競技【男子】
- 1500m **第1位**
- 草野航輝(2M)
- 柔道競技
- 【女子】52kg級 **第1位**
- 関根史織(1M)
- 【男子】73kg級 **第2位**
- 八巻龍成(1C)



その他

- その他にも、ローカルなレベルですが、アカデミックなもの、防犯のためのもの、ボランティア、芸術的な活躍もあります。
- 今回特筆すべきは、留学生たちが二つのスピーチコンテストで受賞したことです。
- 地域連携、地域貢献的な取組も含め、ご紹介いたします。

若手研究者発表会

- 3月1日、「令和6年東北地区若手研究者研究発表会」が郡山の日本大学工学部で開催され、2名の学生が「**優秀発表賞**」を受賞
- これは、東北地区の企業・大学院・大学・高専で研究活動を行う若手研究者の発表会
- 植指導教員、山田指導教員、立花さん、田口校長



留学生も活躍

- 1月20日、いわき市文化センターで「外国にルーツを持つ市民による日本語のスピーチコンテスト」が開催され、留学生が**優秀賞1名、敢闘賞を3名**が受賞
- 12月1日、「外国人による日本語スピーチコンテスト」で**株式会社河京・会長賞**を受賞



学警連の「善行賞」受賞

- 1月22日、いわき市生涯学習プラザで開催された令和5年度第2回いわき中央警察署管内学校警察連絡協議会（通称**学警連**）において、本校の学生2名が詐欺被害を未然に防止したことにより、「**善行賞**」を**17年ぶりに受賞**
- 世間を騒がせている高齢者への詐欺を未然に防止した、馬上さんと水野さん



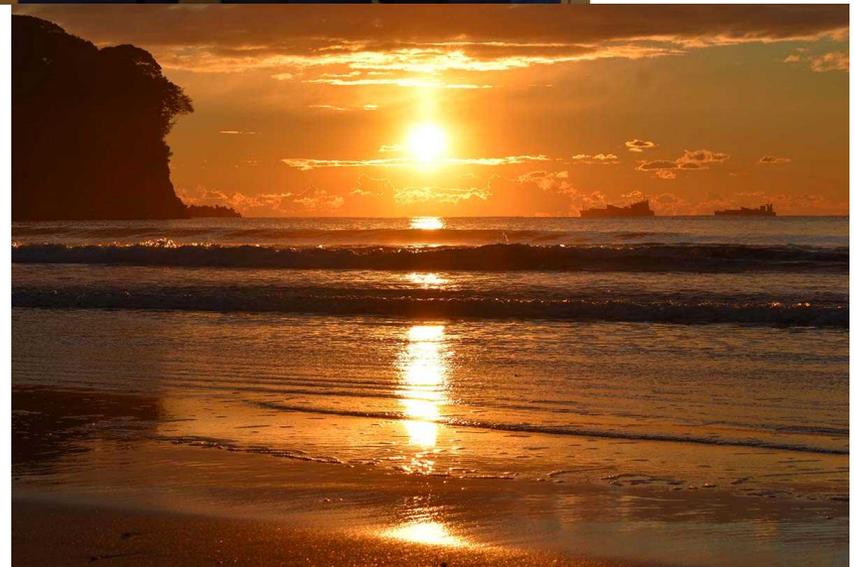
鐵道愛好会

- 3月29日、会津鉄道
フォトコンテストで花井
仁さん(2M)が社長賞
受賞(湯野上温泉駅を
撮影)
- 6月8日、JR常磐線沿
線の清掃ボランティア
- 8月2日～4日、「16回
全国高等学校鉄道模
型コンテスト」で奨励賞
受賞



福島銀行フォトコンテスト

- 10月31日、福島銀行主催、ふくぎん地域元気プロジェクト第2弾、県内の高校生対象の「2025年カレンダー**フォトコンテスト**」で、橋本拓真さん(2E)が「ふくぎん賞(**佳作**)」受賞
- 作品名「初日の出」(岩間海岸)⇒



湯本一中で「情報モラル教室」

- 福島県警からサイバー防犯ボランティアの委嘱を受けた学生8名が、12月13日に湯本第一中学校で、「**情報モラル教室**」を実施し、SNSトラブルへの注意喚起等を行った。
- 中学生は、同年代の講師たちの話に、熱心に耳を傾けた。



いわきおどりに参加

- 8月8日、「福島高専ビ
ジコミ+α」が久しぶり
に**いわきおどり**に参加
- 体育館での練習や法
被の準備、プラカード制
作を学生が自ら計画し
実行
- 写真や動画の撮影も学
生が担うなど、学年や
学科の枠を越えた学生
同士の交流を生む良い
機会に。



おわりに

- 他にも、学生たちは日々の勉学と両立する形で、積極的に学校内外で活動し成果を上げております。
- その様子は、本校ホームページで発信しておりますので、是非ご覧ください。
- 今後とも応援よろしく願いいたします。
- ご清聴ありがとうございました。

動画をご覧ください

- この後、学生が撮影・編集した8月8日の「いわきおどり」と11月2日の「磐陽祭」の動画をご覧ください。
- いわきおどりは、橋本拓真さん(2E)と渡辺輝人さん(専攻科1BC)が撮影し、編集したものです。
- 磐陽祭の方は、渡辺輝人さんが撮影し、編集しました。お楽しみください。